

# 教育委員会の先生方が考える 開発教育／国際理解教育の意義は？

JICA 広報室地球ひろば推進課では教育行政における国際理解教育／開発教育の推進を目的に文科省・教育委員会の先生方を途上国に派遣する「教師海外研修（行政官コース）」を実施しています。本年度は、セネガル、カンボジア、ガーナの3か国への派遣が行われました。今回特集では、本研修に参加された全国の教育委員会の先生方の声をお届けいたします。途上国での1週間の研修でどのようなことを感じ、考えられたのか、ぜひご覧ください！

## 国際理解教育に対する考え方の変化

●日本に対する考え方が変わった。世界を考えたり、世界と日本を比較したりしたとき、常に日本がスタンダードであると考えていたが、セネガル滞在中、「一億人程度しかいない日本は世界から見ればスタンダードでも何でもない。」と感じた。日本から遙か遠いセネガルに身を置いて日本を考えたとき、「セネガルから見た日本」「世界から見た日本」の視点で国際理解教育を考えられたことが大きな変化であった。

●これまで私が携わってきた国際理解教育では、外国に行き、その国の情報を持つことの大切さを中心に話してきた。しかし、今回の研修を通じて、自国や自分の住んでいる県の文化、歴史がどのように海外と繋がっていたのか、どのような経緯で今の日本があるのかも含めて考えると、より理解が深まるだろうと感じた。先人達も、そして今を生きる私たちも国際理解について考え続けているとの視点を持つと、さらに深い学びになるのではないかと、新しい切り口を発見できた。

●貧困ゆえの辛さ、教育が行き届かないために生じる課題等、私基準で判断すると極めてマイナスの評価となることが多かった。しかし、カンボジアの子ども達と直接交流する中で、意欲の高さや目の輝き、人としての感情など、置かれた環境は異なっても日本の子どもたちと共通する部分が垣間見られた。こうした経験から、私の先入観や価値観で「かわいそう」「日本がやっていることが正しいだろう」など安易に判断することは誤っていると感じた。文化の違いや生活習慣・価値観等違いはあるけれど、それをきちんと認識してお互いを尊重していく態度が必要であると思う。



●担当教科が英語ということもあり、以前から国際理解教育の重要性は理解していたつもりだった。しかし、胸を張って国際理解教育を推進していただくだけの理論や根拠が自分にはなかった。頭の中で理解しているだけの国際理解と、この目で見て、感じて、心を打たれた経験は全く異なるものであった。また、学習指導要領にも、その必要性は明示されているものの、指導方法、取り組み時間等を考えると「特別なもの」という意識が強かった。この研修を通して、国際理解教育は特別なものではなく、これからの日本の教育には不可欠なものであると実感した。

●国際理解教育についてのイメージは、相互理解、共存共栄を図る、という漠然としたものであったが、本研修を通して考え方は、少しずつ明確なものとなり、広がりやつながりが出始めたと感じている。国際理解教育は、自らのアイデンティティーを確立し、生き方を主体的に模索することにつながるものであり、これ程の大きなインパクトは、日本という閉じられた社会から出て、すべてを広い視野から見つめ直すことで初めて得られるものである。

●開発途上国における教育事情等を中心とした現状を見聞きすることは、我々自身が日頃行っている指導のあり方等を見直す絶好の機会であると思われる。今回も、自分自身が常識だと思って疑わない考え方や習慣がごとごとく覆されるような経験や話に多く触れることができ「生きるとは」、「生きがいとは」、「幸せとは」、「豊かさとは」、「家族とは」、「教育とは」、等々、物事の原点に関わるようなレベルで色々と考えさせられた。

●国や文化が変わっても、人間である限り、食事をし、寝ては起きる。「人は皆同じなんだ」という当たり前のことを、改めて感じる事ができた。人は皆同じだが、それぞれの歩んできた国の歴史、環境によって様々な状況や違いが生まれている。地域やその国の文化に触れることで、自国、日本の良さや長けているところ、欠点や失ってしまったことを考える機会となった。特に教育に携わる立場としても、「できることを考える。忘れずに心の中に留めておく」という意識が高まったことに研修参加の意義があったと考える。



●開発途上国の現状を、実際に見たり感じたりできたことが一番の収穫であり、国際理解教育の推進に取り組む上での「基盤」となる、素晴らしい経験となった。また、日本では考えられないことが当たり前に行われている現地の社会に身を置き、これまでにない経験を数多くする中で、常識や判断基準を含め、自らの思考が大きく揺さぶられた。この状況を子どもに置き換えたとき、国際理解教育は、自己（自国）理解や他者（他国）理解の大切さを認識することや、今後、国際社会に生きる子ども達が、多様な見方・考え方を尊重し、世界に目を向け、関心を持つことにつながるのではないかと考えた。

参加者の本研修を通じた気づきが、読者の皆さまの更なる気づきへと繋がれば幸いです！！